

方法書に対する部会委員からの意見

1 大東憲二委員

- 1 当地域では地下水質の一部の項目で環境基準を超過した例があり、自然由来の可能性もあることから、ボーリング調査等によって、その原因となる可能性のある地層の状況を把握しておくこと。
- 2 地下水位に関する予測評価をすることになっているが、当地域の複雑な地形からみて地盤の構造も複雑である可能性があることから、ボーリング調査等によって地盤の構造と地下水の状況を十分に把握しておくこと。

2 柳澤紀夫委員

- 1 鳥類の調査では、春、繁殖期、夏、秋、冬の5期に調査を実施する旨が方法書で示されているが、通過する渡り鳥の多い愛知県ではこの他に春期と秋期の鳥類の渡り時期にも調査を実施すること。

- 2 愛知県は猛禽類の記録が多いことから、猛禽類を対象とした調査を実施すること。猛禽類には主に昼行性のタカ・ハヤブサ類の他に主に夜行性のフクロウ類も記録されているので、フクロウ類についても調査を実施すること。

- 3 事業実施区域及び周辺には猛禽類の営巣・繁殖が知られていることから、それぞれの行動圏が得られるような調査、営巣環境や営巣状況を知ることができる調査、その他猛禽類の生態を知ることのできる調査等を実施し、解析する必要がある。
事業地域、事業計画と猛禽類とのかかわりが理解できるような解析も行うこと。